

AOI通信

静岡音楽館俱楽部情報誌
DEC.2023 No.112

ご家族、ご友人にぜひおすすめください！

静岡音楽館俱楽部

静岡音楽館俱楽部とは？

AOIで繰り広げられる多彩なプログラムをより身近に、よりおトクにお楽しみいただけるのが“静岡音楽館俱楽部”です。年度会費（4月1日～3月31日）2,000円。1月～3月までは、下記のとおり、さらにお得なご入会キャンペーンを実施します。お知り合いの方に、ぜひご紹介ください。

こんなにおトクな特典が！

1 AOI主催コンサートでご利用いただける1,000円割引券2枚プレゼント

2 チケット10%OFF 1公演2枚まで10%OFFでお求めいただけます！

3 チケット先行発売 一般発売に先駆け、いち早くチケットをお求めいただけます！

4 AOI公演情報無料郵送サービス

5 チケット無料送付サービス

6 年間リザーブシートサービス！

シリーズ全公演のチケットをお求めいただくと、いつもお気に入りの席で鑑賞できます！

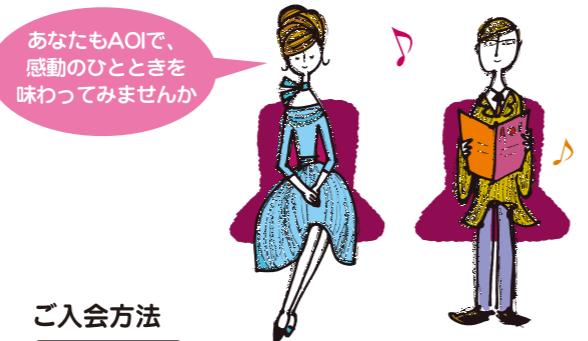
※これら1～6の特典は静岡音楽館AOIが主催する公演に限ります。

※割引先行発売は静岡音楽館AOIでのみお取り扱いします。

AOI以外でも特典が…！

静岡市美術館・MOA美術館入館料割引

静岡市美術館・静岡市立芦沢鉢介美術館・駿府博物館の企画展チケットを抽選でプレゼント
八ヶ岳高原音楽堂（特別割引）



ご入会方法

資料請求

○お問合せ 静岡音楽館AOI TEL.054-251-2200

○AOIホームページ「お問合せフォーム」より、
ご入会希望の旨をお知らせください。

今すぐ申し込みたい！

ご入会には、所定の入会申込用紙へのご記入が必要です。

①初年度会費（2,000円）

②会員登録料

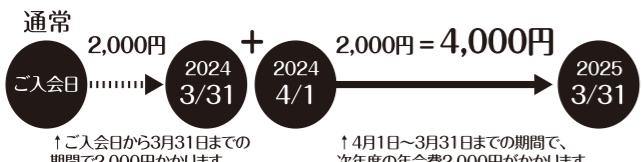
③金融機関届出印

の3点をご持参の上、ご来館ください。

令和6年度 静岡音楽館俱楽部ご入会キャンペーン

2024年1月5日（金）～3月31日（日）※1月5日（金）9:00より受付を開始いたします。

特典1 会員期間が最大3ヶ月プラスに!!



特典2 新規ご入会者先着30名様に
静岡市美術館にて開催される

「高畠勲展 —日本のアニメーションに 遺したもの」

[会期：2023年12月27日（水）～2024年3月31日（日）]

招待券をプレゼント



特典3 静岡音楽館AOIの
特製ノベルティグッズ
(メモ帳)をプレゼント

※今回、初めて入会する方限定

静岡音楽館俱楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、2023年度をもって退会をご希望のかたは、2024年2月末日までに、静岡音楽館俱楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館俱楽部 法人会員（2023年12月末現在）50音順

- (株)アオイテレック
- (株)ジェイアール東海ホテルズ
- (株)SBSプロモーション
- (株)松坂屋
- かわした歯科クリニック
- (株)タミヤ
- (株)メディア・ミックス静岡

コンサートシリーズ2023-24

主 催 静岡音楽館AOI 指定管理者（公財）静岡市文化振興財團

特別協賛 せいしん

協 賛 A アイワグループ

FORUM
studio
HOUSE & SHOP DESIGN

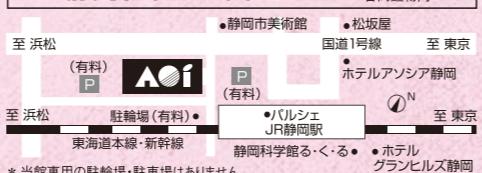
次のことを予めご了承の上、
チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力を
お願いいたします。

※価格は税込です。
※都合により内容を変更する場合があります。
※お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更はお受けできません。
※演奏中のご入場、および他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
※未就学児はご入場いただけません。（一部公演を除く）
※託児サービスはございません。

開場時の諸注意

※8階ホールへのエレベーターの運行は、開場時間以降となります。
※開場時は1階エレベーター前でお待ちの方を優先してご案内いたします。
※地下からご来場のお客様も、一旦1階にて列にお並びください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左 静岡中央郵便局 合同建物内



CONCERT HALL SHIZUOKA 静岡音楽館 AOI

月曜日休館（ただし祝日開館、翌平日休館）9:00～21:30開館

Tel. 054-251-2200

お 問 合 せ

054-251-2200

静岡音楽館AOI 検索



冬号

インタビュー

原田節

（オンド・マルトノ）

ランチタイム・コンサート
原田節 2台オンド・マルトノの世界～市橋若菜を迎えて～

メッセージ

樫本大進 & エリック・ル・サーデュ

（ヴァイオリン）&（ピアノ）

樫本大進&エリック・ル・サーデュ デュオ・リサイタル

column チェンバロって、どんな楽器？①

コンサートシリーズ2024-25



原田節 インタビュー (オンド・マルトノ奏者)

2024年2月17日(土)
「ランチタイム・コンサート
原田節 2台オンド・マルトノの世界
～市橋若菜を迎えて～」に
ご出演いただく、
原田節さんにお話を伺いました。

フランスの電子楽器であるオンド・マルトノですが、発明にいたるまでの歴史について教えていただけますでしょうか。

オンド・マルトノ発明の起源は、1914年から18年の第一次世界大戦中、音楽家であり電気技師でもあった通信兵、フランス人のモリス・マルトノが当時の通信機として使われていた三極真空管からのピュアな発信音に着目したことに始まります。そこから10年以上の研究期間を経て、28年、パリのオペラ座にて初めて公開演奏されました。「オンド」とは、いろいろな「波」に使われる単語ですが、ここでは「電波」という意味になります。

オンド・マルトノのしくみについてくわしく教えていただけますでしょうか。

オンド・マルトノには、マルトノが演奏していたチェロの演奏法や音楽表現が強く反映されています。「リボン」を操る右手は音程=ピッチ、左手前の引き出しにある「トゥッシュ」を奏する左手は音量や音楽的な表情、それぞれの組み合わせでひとつの旋律を紡いでいきます。手は逆になりますが、弦楽器の弦と弓の関係になります。

オンド・マルトノの演奏にも音程を作るポジショニングやボーリング(弓の使い方)といった技術があります。楽器が美しいメロディーを奏でるのはもちろんですが、マルトノにとっては楽器から出る音そのものに心身を癒すリラクゼーションの効果を持つことが重要でした。

オンド・マルトノの写真を拝見しますと、3つのスピーカーがありますね。それぞれのスピーカーの特徴について教えてください。

楽器の音とオーディオ(機械)の音は求めている音が違います。マルトノはマルトノの音がしています。「自分の楽器そのものが自分にとっての芸術作品である」と自負していたマルトノは当初より、音の出口に細心の注意を払っていました。こだわって作り上げた楽器の音を、それぞれの奏者が普通のアンプとスピーカーにつないで使用することは限界があります。

まず、1つ目は、「プランシパル」と呼ばれる、メインで使われる音量も大きいスピーカーで、今日では使われない製法のものです。音源→アンプ→スピーカーという一直線の音の流れでなく、一度アンプで増幅された音が本体に戻り、音の大小ではなく、音楽的なピアニッシモからフォルティッシモを表現できるように設計されています。ピアニッシモで演奏されている音楽は、ステレオで大きな音で聴いてもピアニッシモですし、オーケストラやヘヴィメタのロック・バンドなどフォルティッシモの音楽をステレオでどんな

に小さい音で聴いてもフォルティッシモの音楽なのです。このようにマルトノは、単なる音量の大小だけではなく、音楽的な大小となる工夫をしました。実際、マルトノは「スピーカー」という呼び方に抵抗があったのか、「ディフューズール(拡声装置)」と呼びました。

2つ目は、「メタリック」です。吊るされた銅鑼(ゴング)に音の振動を伝えて、金属的な残響を持ち、豊かな倍音を含む響きを作り出します。その豊かな倍音は、自然にアルファ波を誘発することが実証されています。家で練習しているときもこの音を出すだけでリラックス出来ます。

3つ目は、24本の弦を張った「パルム」です。そのデザインでまず目を惹きます。ハープやギター、リュートのように弦の振動が音源になっています。

1947年、ウィーンでこのスピーカーの仕組みが完成され、初披露されました。これら「メタリック」と「パルム」は電気的な信号で生の空気振動を起こすのです。聴く音は「電気の音」ではなく、いわゆる「アコースティックな生音」になります。これはあらゆる他の電子楽器が追いつかない点です。

オンド・マルトノ、お話を聞けば聞くほどますます興味深い楽器です。原田さんの演奏動画を拝見ましたが、リボンを操作されている時と鍵盤を演奏されている時がありますが、この違いについて教えていただけますでしょうか。

1928年、パリ・オペラ座(旧ガルニエ宮)で初めてオンド・マルトノが演奏された時、鍵盤はまだ音程をとるための目安として板に彫られたダミーの鍵盤でした。そして演奏はもっぱら「リボン」と呼ばれる糸を操る演奏法のみでした。

作曲家モーリス・ラヴェルはその流麗な演奏に魅了され、弦楽四重奏曲など自作曲のオンド・マルトノによる演奏を公式に許可しましたが、ラヴェルはダミーではなく鍵盤でも演奏できるようにしたら、という提案をしました。

その後、鍵盤での演奏を可能とする技術が確立されました。実際の演奏ではそれと分らないほど頻繁に二つの奏法を切り替えています。また、右手で音程を取るということは、鍵盤がギターのような音程を区切る「フレット」の役割であり、個性的なヴィブラートやボルタメントを演奏できることを付け加えておきます。

オンド・マルトノとの出会いについて教えていただけますでしょうか。

幼いころ、テレビや映画などを通じて音は聴いたことがあります。楽器の名前などは、ずっと後に確認することになります。

初めて「オンド・マルトノ」を意識したのは高校の音楽の時間に聴いた、小澤征爾指揮、トロント交響楽団によるO.メシャンの《トゥランガリラ交響曲》でした。ピアノはメシャンの奥さんのイヴォンヌ・ロリオ、オンド・マルトノはその妹であり私の先生となるジャンヌ・ロリオでした。当時、友人たちとのロック・バンドでキーボードをメインに担当し、いろいろな電子の鍵盤楽器には触っていましたが、電子楽器の歴史を扱った書籍の最初に登場するオンド・マルトノに漠然とした興味がありました。授業で聴いたその音に非常に興奮し、その存在感、音楽的な表現の幅広さに完全に圧倒されて音楽室を後にしました。その後、日本では情報もネットも無い時代でしたので、フランスに行くしかないという夢になり、実現すべき目標へと変化してきました。

渡仏してほどなく、小澤征爾指揮、パリ管弦楽団、ロリオ姉妹による《トゥランガリラ交響曲》をシャンゼリゼ劇場で聴くチャンスが

巡ってきました。あんなに遠い舞台からなのに(後方の学生席でしたから)、直接に魂を揺さぶりかける強烈な音のメッセージは、レコードを遥かに超えた体験であり、忘れることのない「事件」でした。そして、自分でも信じられない力が私を楽屋に飛び込ませました。師となるジャンヌ・ロリオとの出会いです。

今回のコンサートで共演される市橋若菜さんについてご紹介をお願いいたします。

市橋若菜さんは魅力的なピアニストでもあり、品位ある視点で音楽に取り組む私の最も長い生徒のおひとりです。確実なピアノ演奏で裏打ちされた音楽性は、オンド・マルトノでも際立っており、個性とアカデミズムが絶妙にバランスを持った演奏で名高いです。私のところで一通りの勉強を終えた後、渡仏して最晩年のジャンヌ・ロリオに師事し、ジャンヌの最後の弟子となりました。

帰国後、私とのレッスンで、最初、ジャンヌがその場に現れたような既視感を感じ、ほんの1時間程度の間に徐々に彼女自身の個性へと変化していくさまを強く記憶しています。生徒というよりはひとりの素晴らしい音楽家との共演という意味で楽しみでもあり、緊張して準備しています。

今回のプログラムは、オンド・マルトノ六重奏曲や静岡音楽館AOI委嘱作品など盛りだくさんの内容です。この公演の聴きどころを教えていただけますでしょうか。

毎日が新鮮な出会いと驚きに満ちていた子どもの頃のドキドキを、もう忘れてしまったでしょうか。乗ったことのない列車と一緒に乗ってみませんか? 聞いたことのない楽器? 知らない曲? 大丈夫、心地よい風が体を吹き抜け、あなたの脳は解放されてむしろ、ちょっと眠たいくらい。舞台の上にあるだけが楽器なのではなくて、このホール全体が楽器のボディ。包まれたあなたは音波浴のとりこになるでしょう。

ありがとうございました!

皆さま、当館ホールの最高の音響空間でオンド・マルトノの演奏をお楽しみください。



◀右手で「リボン」を
左手で「トゥッシュ」を操作します。



原田節 2台オンド・マルトノの世界 ～市橋若菜を迎えて～

2024
2/17 土

22歳以下
¥1,000

11:30 開演(10:45 開場)※12:30 終演予定
全指定 ¥1,800 (静岡音楽館会員¥1,620)
[Pコード: 224-499]

曲目
T.ミュライユ：マッハ2,5 -2台のオンド・マルトノのための-
R.-A.マルセル：ジャワの鳥 -2台のオンド・マルトノのための-
伊左治直：歌おう、感電するほどの喜びを!
(2023年度静岡音楽館AOI委嘱作品・世界初演)
原田節：オンド・マルトノ六重奏曲《白鳳譜》

メッセージ 横本大進&エリック・ル・サージュ

今回のプログラムは、美しいJ.ブラームス:《ヴァイオリン・ソナタ第1番》op.78、J.ブラームス、A.ディートリッヒ、R.シューマンが共同で作曲し、彼らの親しい友人で伝説のヴァイオリニスト、J.ヨアヒムへの贈り物でもある最も興味深い《F.A.Eソナタ》、素敵なC.シューマン:《3つのロマンス》、そして偉大なR.シューマン:《ヴァイオリン・ソナタ第2番》op.121。

R.シューマンとJ.ブラームスのソナタの世界を深く掘り下げることは、以前から私が試みたいと思っていた挑戦でした。それは彼らの室内楽や交響曲作品への視野を広げるためでもあったのです。そして予想通り、この2人の天才が人生と音楽を通してお互いに抱いた愛と尊敬や友情の結びつき、その感情や生き方についてより多くの理解をもたらしてくれました。

このブラームス&シューマン・チクルスを、長年の友人であり音楽仲間でもあるエリック・ル・サージュと一緒に演奏することは、光栄であり、大きな喜びです。

横本大進



© Keita Osada (Ossa Mondo A&D)

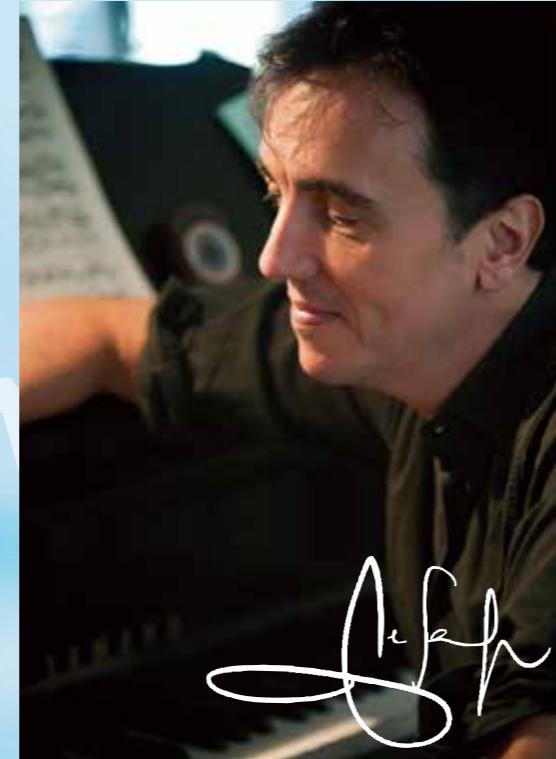
2024年2月2日(金)「横本大進(ヴァイオリン) & エリック・ル・サージュ(ピアノ) デュオ・リサイタル」出演のお二人からメッセージが届きました。

今回のシューマン&ブラームス・チクルスでは、互いにかけ離れた二人の作品群でもひときわ輝く星のような二曲が核となっています。いわば太陽が二つある太陽系を探検していくような仕掛けです。目が眩むほど鮮烈な二曲のうち、J.ブラームス:《ヴァイオリン・ソナタ第1番》op.78は全三楽章が静謐な力強さに貫かれ、抒情、平穏、憂愁という構成と、ただ聞き惚れてしまう旋律と永劫に通じる表現がきわだちます。R.シューマン:《ヴァイオリン・ソナタ第2番》op.121は、超新星爆発の後の中性子星のように、矛盾する極端なエネルギーに満ちています。変化に富んだ風景、沸き立つエネルギーが全四楽章を生き生きとしたものにし、あちこちにちりばめられた気品に満ちた詩情が印象的です。

頂上となる二曲にふさわしい二つの衛星として、J.ヨアヒム、J.ブラームス、R.シューマンの友情の証として書かれた《F.A.Eソナタ》と、C.シューマンの作品のなかでも特に心を揺り動かす《3つのロマンス》をお贈ります。

こうして再び大進と共に演できること、盟友として、ブラームスとヨアヒム、ロベルトとクララ・シューマンの友情と愛と尊敬という旗印のもと演奏することは計り知れない喜びです。

エリック・ル・サージュ



© Jean-Baptiste Millot

残券僅少

横本大進(ヴァイオリン)&
エリック・ル・サージュ(ピアノ)
デュオ・リサイタル

2/2
金

2024

19:00 開演(18:15 開場)
全指定 ¥5,000 (静岡音楽館俱楽部会員¥4,500)
[Pコード: 224-489]

22歳以下
¥1,000

曲 目

J.ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ第1番《雨の歌》ト長調 op.78
J.ブラームス/A.ディートリッヒ/R.シューマン: F.A.E.ソナタ
C.シューマン: ヴァイオリンとピアノのための《3つのロマンス》op.22
R.シューマン: ヴァイオリン・ソナタ第2番 ニ短調 op.121

column

チェンバロって、どんな楽器?①

静岡音楽館AOI 山本れいな

チェンバロは、15世紀にはすでに誕生していたとされている長い歴史を持つ楽器です。16~18世紀前半には「楽器の王様」としての地位を築き、特に17~18世紀のバロック音楽の時代にとても人気がありました。ピアノが誕生するとその座を譲り一度は忘れられた楽器となっていましたが、20世紀に突入するとチェンバロ特有の音色が再評価され古楽器として復活し、今日まで活躍するようになります。

チェンバロを初めて見る人は、まずその華やかな見た目に圧倒されるとともに、「ピアノと違って、何故この楽器だけこんなに派手なのか?」と思うかもしれません。その理由は、チェンバロが主流であったバロック時代(1600~1750年頃)は華麗な宫廷文化だった、ということが関係しています。

宫廷文化は、国王や貴族に好まれるような派手さが特徴です。その影響は芸術全体に及び、動的な躍动感、凝った装飾の多用、光の明暗の対比などが絵画や音楽に濃く反映されていました。特に楽器というものは、絵画と音楽、2つの芸術を融合したもので、楽器の外側や響板(チェンバロの共鳴体となる板)、蓋には当時流行していた様式の絵を描き、漆を塗り、豊かな装飾を施して、家具として飾ることが貴族のステータスとなっていました。最盛期のチェンバロは、金箔を貼った、洗練された外観に華やかな装飾が特徴的です。



静岡音楽館 AOI 所有のチェンバロ

上記の写真がAOIのチェンバロです。18世紀初期のフランス型をモデルとして製作しているため、中国の漆工芸風のデザインが施されています(18世紀初期は、当時のフランス貴族社会で流行した中国模様があしらわれているものが多かったそうです)。足には金箔がふんだんに使用され、蓋の両面には木に留まる鳥の絵が、中を見てみると響板には花や蝶の絵が描かれています。これらには、

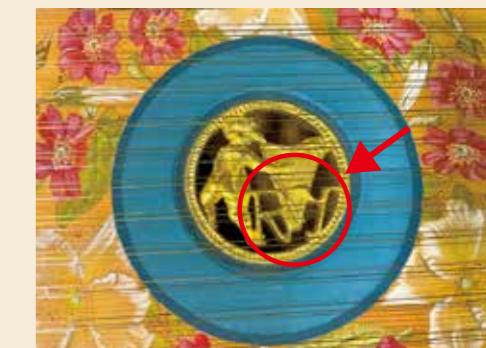
木や花をチェンバロの身体の源、鳥や蝶を生命として表現し、「切り倒された(一度死んだ)木が、楽器となって再び命を宿し、歌い出す」という意味が込められています。



チェンバロの蓋や響板に描かれている絵



響孔と呼ばれるチェンバロ中心部の穴には、背中を向けた天使が振り向いた姿のエンブレムが描かれており、その下部にはチェンバロ製作である吉田令さんのイニシャル「RY」が刻まれています。これは「このチェンバロは吉田令さんが製作しました」という証明になっています。



チェンバロ内部のエンブレム

また、AOIが所有するチェンバロの鍵盤は、現代の鍵盤楽器とは逆の配色になっていますが、これもまたフランスで流行したスタイルだと言われています(諸説あり)。流行した背景には、重さが軽い黒檀をより多く使用し、鍵盤全体の重さを軽くするため、あるいは白鍵の主な材料であった象牙が高価であることから、象牙部分を減らしてコストを下げるため、あるいは演奏者の手の白さを際立たせるためなど様々な考察があるようですが、明確な理由は分かっていません。いずれにせよ、時代の変化によって人のものの見方や価値観が変化していることが、楽器からもうかがえます。

さて、今回はチェンバロの外見の特徴を辿っていきます。次回は、いよいよチェンバロの発音の仕組みに触れていきたいと思います。どうぞお楽しみに!

*当館の公式YouTubeチャンネルでは、「AOIのチェンバロ」という動画を公開し、仕組み、歴史、AOIの楽器の特徴について更に詳しく解説をしています。是非ご覧いただき、チェンバロという魅力溢れる楽器に興味を持っていただければと願っております。

静岡音楽館AOI Concert Hall Shizuoka



2024年度も盛りだくさんのラインナップをご用意しました。どうぞご期待ください。

CONCERT SERIES 2024-25

2024 第1期

静岡市文化振興財団30周年 笑顔 デ カケル プロジェクト

オーケストラを聴こう

ベートーヴェン 交響曲全集V

5/11 [土] 15:00 開演(14:30 開場)

会場 静岡市民文化会館 大ホール

指定A ¥7,000 (会員¥6,300)

指定B ¥6,000 (会員¥5,400) [Pコード=250-774]

(22歳以下(指定Bのみ) ¥1,000)

[主催] (公財)静岡市文化振興財团

出演 沼尻竜典(指揮)

石橋栄実(ソプラノ)

山際み佳(メzzo-soprano)

清水徹太郎(テノール)

青木貴(バリトン)

読売日本交響楽団(管弦楽)

新国立劇場合唱団(混声合唱)

富平恭平(合唱指揮)

2024 第1期

3/9 (土)より発売 静岡音楽館俱楽部会員先行発売 3/2 (土)より

阪田知樹
ピアノ・リサイタル

6/9 [日] 15:00 開演(14:30 開場)

全指定¥4,000 [Pコード=250-775]

(会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

出演 阪田知樹(ピアノ)

曲目 C.ドビュッシー: 前奏曲集 第1巻

F.ショパン: 24の前奏曲 op.28

「清澄なタッチ、優美な語り口の完全無欠な演奏」と称された阪田知樹氏の洗練されたピュッシャーとショパンをたっぷり味わえるコンサートです。

子どものためのコンサート

成田達輝
ヴァイオリンの煌き

6/29 [土] 15:00 開演(14:30 開場)

全指定¥2,500 [Pコード=250-779]

(会員¥2,250、22歳以下¥1,000) 親子券¥3,000

曲目 L.V.ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱付》ハ短調 op.125

エドゥアルド・フェルナンデス&福田進一
ギター・デュオ・リサイタル

8/31 [土] 15:00 開演(14:30 開場)

全指定¥4,000 [Pコード=250-788] (会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

出演 エドゥアルド・フェルナンデス(ギター)

T.アデス: ダークネス・ヴィジブル(E.フェルナンデス編)

G.サントルソラ: ソナタ・ア・デュオ第1番

吉松隆: アトム・ハーツ・クラブ・デュオ op.70a ほか

*内容が変更になる場合があります。



© RYOICHI ARATANI

© HIDEKI NAMAI



© Marco Borggreve

© Marco Borggreve

エドゥアルド・フェルナンデス&福田進一
ギター・デュオ・リサイタル

8/31 [土] 15:00 開演(14:30 開場)

全指定¥4,000 [Pコード=250-788] (会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

出演 エドゥアルド・フェルナンデス(ギター)

T.アデス: ダークネス・ヴィジブル(E.フェルナンデス編)

G.サントルソラ: ソナタ・ア・デュオ第1番

吉松隆: アトム・ハーツ・クラブ・デュオ op.70a ほか

*内容が変更になる場合があります。



© Takanori Ishii

© Ayane Shindo

© Masha Mosconil

© Masha Mosconil

CONCERT SERIES 2024-25

2024 第2期

第28回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサート

9/14 [土] 全自由¥1,800 [Pコード=250-791] (会員¥1,620、22歳以下¥1,000)

静岡 室内楽フェスティバル2024

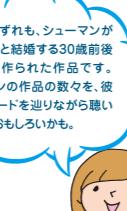
シューマンの午後

9/21 [土] 14:00 開演(13:30 開場)

*16:40終演予定

全指定¥5,000 [Pコード=250-792]

(会員¥4,500、22歳以下¥1,000)



© Daniel Delang

© TAKA MAYUMI

© Takaaki Hazui

© Takaaki Hazui

ピエール=ロラン・エマール ピアノ・リサイタル

10/6 [日] 14:00 開演(13:30 開場) ≈17:15終演予定

全指定¥5,000 [Pコード=250-793]

(会員¥4,500、22歳以下¥1,000)

出演 ピエール=ロラン・エマール(ピアノ)

曲目 O.メシアン: 鳥のカタログ



静岡音楽館AOI × 東京文化会館 連携事業
ランチタイム・コンサート

「静岡の名手たち」と「東京音楽コンクール入賞者」による
ジョイント・コンサート

10/17 [木] 11:30 開演(11:00 開場) ≈12:30終演予定

全指定¥1,500 [Pコード=250-795] (会員¥1,350、22歳以下¥1,000)

出演・曲目

入川舜(ピアノ) (第5回「静岡の名手たち」オーディション合格)

林光: ピアノ・ソナタ第2番《木々について》

大崎由貴(ピアノ) (第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位))

J.S.バッハ: イギリス組曲第2番 イ短調 BWV807

今田篤(ピアノ) (第13回、第15回「静岡の名手たち」オーディション合格 / 第11回東京音楽コンクール第2位)

L.V.ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第27番 ハ短調 op.90



東京文化会館との連携コンサート。それぞれの館から誕生した才能が、AOIの舞台で再び感動を巻き起こすこと間違いなし。

曲目 L.V.ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第27番 ハ短調 op.90

出演・曲目

入川舜(ピアノ) (第5回「静岡の名手たち」オーディション合格)

林光: ピアノ・ソナタ第2番《木々について》

大崎由貴(ピアノ) (第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位))

J.S.バッハ: イギリス組曲第2番 イ短調 BWV807

今田篤(ピアノ) (第13回、第15回「静岡の名手たち」オーディション合格 / 第11回東京音楽コンクール第2位)

L.V.ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第27番 ハ短調 op.90

出演・曲目

入川舜(ピアノ) (第5回「静岡の名手たち」オーディション合格)

林光: ピアノ・ソナタ第2番《木々について》

大崎由貴(ピアノ) (第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位))

J.S.バッハ: イギリス組曲第2番 イ短調 BWV807

今田篤(ピアノ) (第13回、第15回「静岡の名手たち」オーディション合格 / 第11回東京音楽コンクール第2位)

L.V.ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第27番 ハ短調 op.90

出演・曲目

入川舜(ピアノ) (第5回「静岡の名手たち」オーディション合格)

林光: ピアノ・ソナタ第2番《木々について》

大崎由貴(ピアノ) (第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位))

J.S.バッハ: イギリス組曲第2番 イ短調 BWV807

今田篤(ピアノ) (第13回、第15回「静岡の名手たち」オーディション合格 / 第11回東京音楽コンクール第2位)

L.V.ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第27番 ハ短調 op.90

出演・曲目

入川舜(ピアノ) (第5回「静岡の名手たち」オーディション合格)

林光: ピアノ・ソナタ第2番《木々について》

大崎由貴(ピアノ) (第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位))

J.S.バッハ: イギリス組曲第2番 イ短調 BWV807

今田篤(ピアノ) (第13回、第15回「静岡の名手たち」オーディション合格 / 第11回東京音楽コンクール第2位)

L.V.ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第27番 ハ短調 op.90

出演・曲目

入川舜(ピアノ) (第5回「静岡の名手たち」オーディション合格)

林光: ピアノ・ソナタ第2番《木々について》

大崎由貴(ピアノ) (第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位))

J.S.バッハ: イギリス組曲第2番 イ短調 BWV807

今田篤(ピアノ) (第13回、第15回「静岡の名手たち」オーディション合格 / 第11回東京音楽コンクール第2位)

L.V.ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第27番 ハ短調 op.90

出演・曲目

入川舜(ピアノ) (第5回「静岡の名手たち」オーディション合格)

林光: ピアノ・ソナタ第2番《木々について》

大崎由貴(ピアノ) (第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位))

J.S.バッハ: イギリス組曲第2番 イ短調 BWV807

今田篤(ピアノ) (第13回、第15回「静岡の名手たち」オーディション合格 / 第11回東京音楽コンクール第2位)

L.V.ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第27番 ハ短調 op.90

出演・曲目

入川舜(ピアノ) (第5回「静岡の名手たち」オーディション合格)